

2022年9月 発行

RIKEJO SCIENCE FORUM-2022-

- NEWS LETTER -



2022/8/10 (Wed)
13:00-17:00 開催

246名参加（保護者含む）

ご参加いただいたみなさま、 ありがとうございました！

筑波大学・つくば市共催「リケジョサイエンスフォーラム-2022-」を開催しました。女子中高生の方、その保護者の方を含め400名近くのお申込みがあり、【246名】の方にご参加いただきました。

前回に引き続き、完全オンラインによるイベントとなりましたが、企業や研究機関、大学等で活躍されている講師の方を招いてお話を伺った「ロールモデル紹介」、講師や学生と交流ができる「ラウンドテーブルカフェ」、筑波大院生の「研究室紹介」を実施し、各プログラムとも盛況を博すことができました。

お答えしきれないくらいたくさんの質問があり、理系に対して参加者のみなさんの興味関心が高いことが伺えました。今回のイベントを通して、研究の楽しさや魅力をお伝えするとともに、少しでも疑問や不安が解決される機会となっていたら嬉しい限りです。

ロールモデル紹介

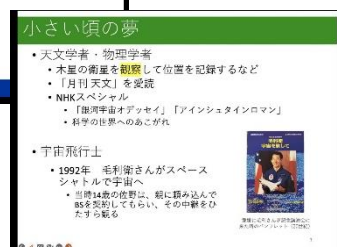
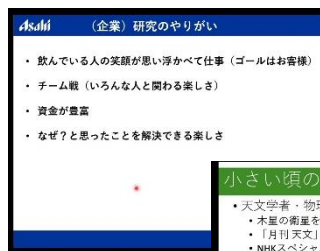
ロールモデル紹介では、3名の講師の方をお招きし、実際の理系のお仕事について、それぞれお話を伺いました。

参加者は順番に話を聞き、気になった内容についてメモを取る様子も散見されました。講師のみなさんの研究機関や企業、それぞれの分野の研究について、理解を深めることができたようです。

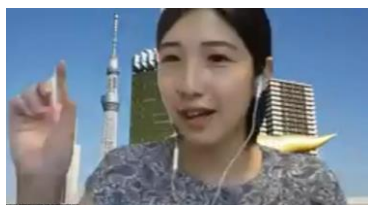
また、現在のお仕事の内容だけでなく、お仕事のやりがいや、どのような経緯で企業や研究を選んだのかなど、丁寧に伝えてくださいました。高校時代や大学時代のご経験も多く共有していただき、中高生にとって大きな励みとなりました。

生き生きと、想いを持って研究に打ち込む講師のみなさんの声を直接伺える、とても貴重な機会となりました。

「迷わず理系に進み、企業で研究がしたいと心に決めました」など、勇気づけられたといった声を多くいただきました。



中村 祥子さん
(森林総合研究所)



高木 眞莉奈さん
(アサヒクオリティードイノベーションズ株式会社)



佐野 幸恵さん
(筑波大学システム情報系)

ラウンドテーブルカフェ

今回は、3つのグループに分かれて行いました。参加者は、事前に配布したパンフレットを参考に、各部屋を自由に移動しながら交流に参加しました。前半後半の2部制での実施となり、各部屋に足を運ぶ方や、興味がある講師の部屋に留まって深くお話を聞く参加者の方もいました。

開始後すぐにたくさんの質問が届き、講師の方が1つずつ丁寧に答えしていました。質問内容としては、理系を選んだきっかけややりがいなどをはじめ、現在行っている研究内容やテーマの決め方など様々でした。

中には「科学の力で社会問題を解決するにはどうすればいいか」「研究はどのような社会貢献につながっているのか」など、研究と社会のつながりを意識した質問もありました。

参加者の不安や悩みを受け止め、気持ちに寄り添いつつお話をされている様子がとても印象的でした。

「苦手な教科があっても理系を諦めなくて大丈夫」「可能性を狭めないでほしい」「もし興味のない対象の研究で就職したとしても、徐々に自分のやりたいことに仕事に引き寄せていくことはできる」など、背中を押してくれる心強いメッセージも、参加者のみなさんの心に響いたのではないかと思います。

研究室紹介

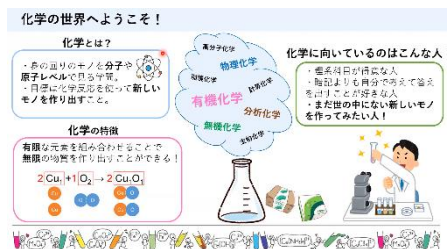
今回、研究室紹介では4名の筑波大学院生が自身の研究室や研究について紹介をしました。参加者は事前に配布したパンフレットを参考に、質問を交えながら発表を聞いていました。

化学、地球科学、生命農学、応用理工学分野の学生が研究室紹介を行いました。実際に研究している内容について話を聞くことで、普段どのような研究や学習をしているのか、具体的にイメージすることができたのではないかと思います。

発表内容は研究についてだけでなく、理系に進学したきっかけや研究の魅力、大学生活や筑波大学の魅力など多岐にわたりました。

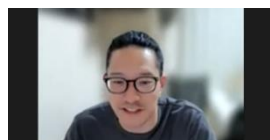
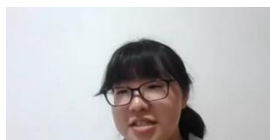
紹介後には「今までに作った化合物の中で一番興味深かったものは？」など研究内容についての質問はもちろん、「大学内では院に進学する方が多い？」「アルバイトは一週間または一日の中でいつ行っている？」など様々な質問が届き、それに回答する形で進められました。

「元々興味のなかった分野も多くありましたが、お話を聞いているうちに引き込まれました」などの声もあり、各分野への興味を深めてもらえたと実感しました。



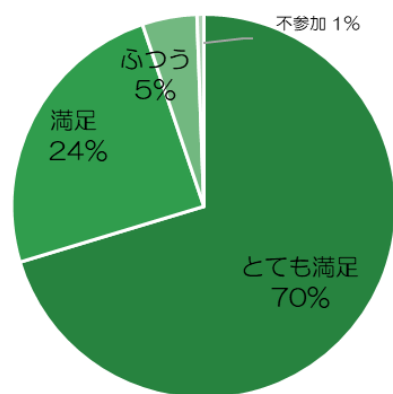
学生スタッフの声

- ・積極的に挙手ボタンで質問したり、数回チャットにて質問するなど、多くの参加者が活発に参加して疑問を解消していた様子だった。
- ・研究内容やキャリアについての質問に加え、今後の進路に対する不安・相談などの質問もあり、将来を考える上で参考になることも多かったと思う。
- ・大学に向けた進路選択だけでなく、就職のことなど人生の先の方まで考えている様子が印象的だった。
- ・理系分野の研究の最前線に携わる方の価値観や考え方に触れることは、参加者にとって大きな刺激になったのではないかと。実際スタッフで参加し、自分の専門外の分野の話題に接することができ、大変よい学びの機会となった。
- ・参加者の意欲と熱意が画面越しにも伝わってきた。今回のイベントを通して、理系の道を志す人が少しでも増えてくれたら嬉しい。



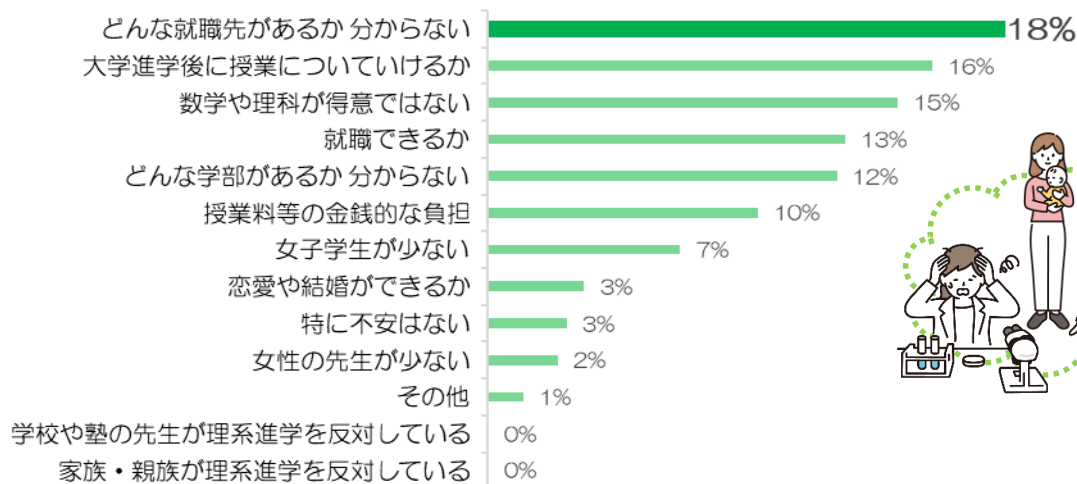
アンケート結果

各コーナーの満足度

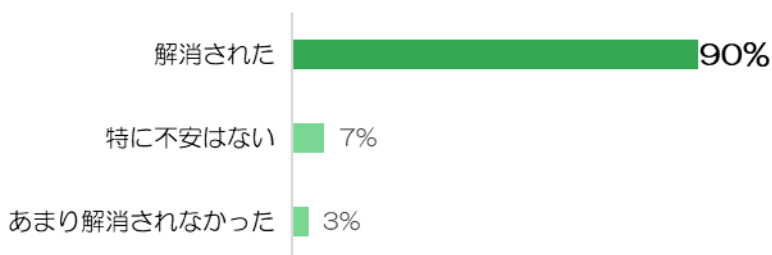


- 詳しくお話を聞くことができ、理系の将来の選択肢について具体的に想像することができてよかったです。
- 理系の研究内容が詳しく聞けたことがとてもよかったです。モチベーションが上がりました。
- 大学で身に着けた行動力などが社会人になって生きるということが印象に残りました。
- 新しいことに挑戦するということの素晴らしさについて学ぶことができました。
- 研究がどう社会貢献につながるのかの考えを聞けたことが印象に残りました。
- 自分が興味のある道に進むことが一番後悔しないし学びも充実すると感じたので、理系に進みたい気持ちが強くなりました。
- はっきりとした目的をもって日々過ごしている先輩方が多くいると思ったので、筑波大に進学したい思いが強くなりました。

理系進学について不安に思うことを教えてください



イベントに参加して不安は解消されましたか



イベントに参加して理系進学への気持ちに変化はありましたか



その理由を教えてください

< 理系学部への進学の気持ちが強くなった >

- 今回のお話で自分のなりたいものを再確認することができ、理系に行きたいなと思ったから。
- 理系の中にも様々な分野があり、選択肢がたくさんあることを知れたから。
- 今日お話しくださった方々が、ほんとに楽しそうで、何より「なぜ？」を追求できることに魅力を感じたから。
- 興味のある分野に進んでみようという勇気をもらうことができたから。



< 理系・文系で迷う気持ちが強くなった >

- 理系のことを知れたので文系のことも知りたいなと思ったから。
- 理科は好きだが、数学が苦手だから。



その他、イベントの感想

- リアルな声を聞くことが出来て、とても参考になりました。素敵な機会をいただきありがとうございました！
- 参加人数が多くても、直接質問に答えていただけなのがとても良かったです。参考になりました。
- 今回のような機会があったら、また参加したいです。
- 昨年も参加しましたが、今年はなんだかさらに深くお話が伺えたように思います。ありがとうございました！
- オンラインなので、地方からも気軽に参加できました。
- とても為になりましたし、理系に進みたいという気持ちもますます強くなりました。このまま理系に進めるように、日々勉強を頑張ります。
- 女性ならではの大変なことも話にでていて、まさに「リケジョ」ならではの価値のある時間になりました。
- 自分の興味のある分野を深掘りしていく皆さんが素敵だなと感じました。
- 大学生活のイメージが少し持てて、自分の勉強のモチベーションアップにつながりました。またぜひ機会があれば参加したいです。

Q and A

講師の先生方の回答

中村 祥子さん（森林総合研究所）

Q 野外活動は1回
どのくらいの時間行いますか？

A 体力勝負のため、自分の体力のできる範囲で計画しています。現在は、週3～4日午前中のみ行っており、環境や天候によっても異なります。フィールドが遠い場合は、数週間に1回程度の出張や、ターゲットの花が咲く時期の短期集中的な出張を組み合わせています。

Q 自分の好きな研究を
仕事にするのは難しいでしょうか？

A 好きな研究の仕事に就くのは運もあるかもしれませんが。はじめはそんなに興味のない対象の研究で就職したとしても、徐々に自分のやりたいことに仕事に引き寄せていくことはできると思います。

高木 眞莉奈さん（アサヒクオリティードイノベーションズ株式会社）

Q 会社のどんなところに魅力を感じましたか？

A 一つの研究所にグループの研究開発部門が一同に集まっている点、風通しがいい点が魅力と感じていました。実際に入社してみて、働く人や環境を大切にしてくれる会社だと感じています。

Q 志望した会社に入社できた背景として、ご自身の武器は何だったと思いますか？

A まず、その会社へ入社したいという想いがとても大きかったことです。他には学生時代、ひとつひとつ意志をもって行動をしていたことなどもあると思います。（例えば英語を身に付けたいから、留学生の多い研究室に所属しようなど）

佐野 幸恵さん（筑波大学システム情報系）

Q SNSの研究をすることを決めた
決定的な理由は何ですか？

A 分岐点がいくつかあり、まずは社会現象にも興味を湧いてきました。そして調べていくうちに、楽しそうに研究している研究者の姿や、ネットワークとして人とのつながりが可視化されていく面白さに惹かれ没頭してしまいました。

Q 理系に進むにあたって、高校生のうちに
やっておいた方が良いことは何でしょうか？

A 理系・文系を考えすぎなくてもいいと思います。受験もちろん高校生の醍醐味ですが、ぜひ高校生らしい生活も満喫してほしいです。

Q and A

学生スタッフの回答

笠原 留奈さん（理工情報生命学術院 数理工物質科学研究群・化学学位プログラム）

Q 作った化合物の中で一番興味深かったものはどんなものですか？

A 自分の手で初めて合成できた化合物です。既に知られている化合物より、自分で作り出すもののほうが興味深く、愛着がわきます。化合物を大事に扱っています。

Q 研究が忙しそうですが、仕事や趣味の時間はありますか？

A 研究は月～土曜日に行い、日曜日は休むこともできます。別のコミュニティで気分転換することもできるため、アルバイトを行っています。自分次第で研究と両立もできます。

深澤 春香さん（理工情報生命学術院 生命地球科学研究群・地球科学学位プログラム）

Q 英語力はどのようにして鍛えましたか？

A 日々勉強しています。大学院の試験でもTOEICの点数が必要なので、対策をしていました。今は研究室に留学生がいて比較的話す機会があるので、そういった部分でも英語力が身につけていると思います。

Q 古生物に進んだ具体的なきっかけを教えてください

A 古生物をもっと知りたい！という純粋な気持ちと、自分が面白そうだと思う研究ができそうだったことが大きいです。また研究室という観点では、指導教員と研究の相談をしてとても親身になってくれる先生で安心して研究できると感じたからです。

渡邊 奈穂美さん（理工情報生命学術院 生命地球科学研究群・生命農学学位プログラム）

Q 研究は一人で行うのでしょうか？また、どのような企業に就職を考えていますか？

A 実験によって変わりますが、一度に大量のデータが欲しい場合などは2-3人で行います。業界を絞った就活はしていませんが、大学院での研究スキルを活かすことができる製薬企業などを考えています。

Q 絶滅の危険がある生物を救える技術とのことでしたが、どの生物も救えるのでしょうか？

A 生物が変わることで実験中に行う処理等も変更する必要がある為、一概に全く同じ方法でできるとは言えません。条件検討を行ったうえで体細胞クローン技術によって救うことはできると考えています。鳥類の場合には卵の形態がマウスと異なる為、実験手法がガラッと変わります。

市川 真衣さん（理工情報生命学術院 数理工物質科学研究群・応用理工学学位プログラム）

Q 大学院生の就活事情が知りたいです。また将来、どのような職業に就きたいですか？

A 修士1年の夏にインターンに参加し、1年の3月～本格的に面接が始まり、2年の5・6月頃には就職先が決まります。現在就職先が決まっています。化学メーカーの技術職で、研究や解析を行う予定です。

Q 大学に入って一番驚いたこと、変化したことは何ですか？

A 自由であること。どのサークルに入るか、アルバイトはどうするか等の選択はもちろん、どの授業を受けるかも人によって違うため、自分の興味や都合に合わせて自由に履修やスケジュールを考えることができます。その為自分で計画を立ててやるべきことを確認しながら作業する力が身についたと思います。

Special Thanks

一緒にイベントを作ってくれた筑波大学の
学生スタッフのみなさん、ありがとうございました！

笠原 留奈さん 深澤 春香さん 渡邊 奈穂美さん 新田 佳奈美さん
豊富 瑞歩さん 伊藤 克樹さん 江頭 健斗さん ヨウ ユエンさん 市川 真衣さん



リケジョサイエンスフォーラム-2022- Newsletter

発行：2022年9月

発行元：国立大学法人 筑波大学 ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
ダイバーシティ担当（前野・樋熊・片岡・小倉・飯塚・森田）

連絡先： TEL 029-853-8504 E-mail <rikejo@un.tsukuba.ac.jp>